

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地															
華服飾専門学校	昭和51年6月10日	坂本 克雄	〒110-8662 東京都台東区根岸1-1-12 (電話) 03-3875-1111															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地															
学校法人華学園	昭和33年7月3日	森田 十誉子	〒110-8662 東京都台東区根岸1-1-12 (電話) 03-3875-1111															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士														
服飾・家政	服飾専門課程	ファッションテクニカル科	平成7年文部科学省 告示第7号	-														
学科の目的	服飾に関する専門的学理と技術を教授し、職業・実生活に必要な能力を育成すると共に教養の向上を図り、我国文化並びに社会に貢献することを目的とする。																	
認定年月日	平成26年3月31日																	
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技												
2	62単位	25単位	0単位	37単位	0単位	0単位												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数													
70人	28人	0人	3人	6人	9人													
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業科目の成績評価は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。													
長期休み	■夏季: 7月25日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月7日 ■春季: 3月20日～4月5日 教育上必要があり、かつ、やむを得ない事情があるときは、前項の規定にかかわらず、休業日に授業を行うことがある。		卒業・進級条件		卒業・進級判定会議を開催し、成績・出席状況にてらして総合的に判断し決定する。													
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 各学年4月、9月に担任が個別面談を行う。 その他、個人別に必要に応じて指導や面談を実施して、面談内容は学生カルテに記録する。		課外活動		■課外活動の種類 就活研修 海外研修 工場見学研修 企業研修(インターンシップ)等 ■サークル活動: 有													
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) アパレル企業・縫製工場・リフォーム会社・和裁所 ■就職指導内容 職業理解、社会人マナー、自己分析、求人票の見方、履歴書作成、面接試験演習、企業研究、個別相談の対応 ■卒業生数 : 12 人 ■就職希望者数 : 12 人 ■就職者数 : 12 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 : (平成30年度卒業生に関する平成31年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他(民間検定等) (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パターンメーキング技術検定3級</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ファッション色彩能力検定3級</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するが記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	パターンメーキング技術検定3級	③	6人	4人	ファッション色彩能力検定3級	③	11人	9人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数															
パターンメーキング技術検定3級	③	6人	4人															
ファッション色彩能力検定3級	③	11人	9人															
中途退学の現状	■中途退学者 2 名 ■中退率 7 % 平成30年4月1日時点において、在学者26名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者24名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 体調不良、経済的問題 ■中退防止・中退者支援のための取組 入学時オリエンテーションの充実。 定期的担任面談、内容により学生指導担当や校長等が面談を実施し学生と対話する機会を多く設けている。 経済的理由の場合は、保護者と連絡をとりながら奨学金等の説明を行う。																	
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 創立者 坂本静子・愛子奨学金/特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																	
当該学科のホームページURL	URL: http://www.hana-fashion.ac.jp/																	

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
 - ①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
 - ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
 - ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

- (2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について
 - ①「卒業生に占める就職者の割合」とは、卒業生数のうち就職者総数の割合をいいます。
 - ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わず)。
 - (3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進路状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会の委員長は学校長とし、業界の求める人材の動向、実務に必要な最新の知識・技術・技能などを審議する事を目的に教育課程編成委員会を設置し教育課程の策定を行う事とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
吉野 進	株式会社イトークリエイト グループ顧問	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
山田 良美	有限会社汀麻利工房 取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
並木 利明	株式会社クレオ 柏店店長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
尾崎 雅久	株式会社フォルムアイ 東京事業本部 営業推進部 部長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
竹下 昌克	株式会社上野商会 管理本部管理部門人事課課長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
坂本 克雄	華学園理事・華服飾専門学校校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
高柳 和子	華服飾専門学校 教育部	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
川上 さやか	華服飾専門学校 教育部	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
中島 直子	華服飾専門学校 教育部	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
神谷 由紀	華服飾専門学校 教務部	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回開催(7月・1月)

(開催日時(実績))

- 第1回 令和元年7月23日 15:00～17:00
第2回 令和2年1月 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員の意見を参考に企業の求める人材を育てる為、旧学則では全科目「必修」だったが、将来目指す職種に応じてより自由に履修する教科を選択できるように学則変更を行い、教科を「必修」「選択必修」「自由選択」の区分に分けた。また、評価対象外であった「実学研修」を「総合実習」という名の教科とし単位をあたえる事とした。「社会人基礎力」の更なる向上を目指し、自己理解を深め対人コミュニケーションについての演習をする「LIFOプログラム」を取り入れた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

建学の精神である「華学園の教育を通じて 時代の求める職業人を育成」する為に、業界で実際に働いている講師を招聘しファッション業界で役立つ知識・技能を身に付けさせる。講師選定にあたっては学生が社会人となった時にすぐに活用できるように現在 業界で活躍中の業界人を条件とした。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業に講師派遣を依頼し、通年または半年の授業をする。授業内容は実践的であり、社会に出て必要な能力を養う内容。

1年ファッションテクニカル科後期に「プロソーイング」として週5コマ(1コマ50分)×15回 計75コマの授業を、連携企業から派遣された講師が行い実際の職業の現場での手法を学生に指導する。また、S、A、B、C、Fの評価を行いC判定以上は3単位修得。

2年ファッションテクニカル科前期に「量産企画実習」として週5コマ(1コマ50分)×15回 計75コマの授業を、連携企業から派遣された講師が行い実際の職業の現場での手法を学生に指導する。またS、A、B、C、Fの評価を行いC判定以上は3単位修得。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
量産企画実習	・ジャケットパターン、スカートパターンの製作 ・ジャケット、スカートの製作 ・仕様書の製作 等	有限会社 汀麻利工房
プロソーイング	・各種部分縫いテクニック(縫い代始末各種、ポケット各種、ファスナー付け各種、袖口の開き始末各種) 等	有限会社 汀麻利工房

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員研修規程 第1条の目的並び第4条の研修の計画的推進に基づき教職員に対し、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能ならびに、授業および学生に対する指導力等の修得、向上を目的とする組織的な研修を計画を立てて受講させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「CAD研修会」(連携企業等:コズミックブルーム 講師:高松好枝氏(外注パタンナー))
 期間:平成30年8月27日(月) 対象:2名
 内容:学内教室で研修。服飾造形を担当する教員がニット素材のドレーピングについて実習。

研修名「製図補正研修会」(連携企業:(有)汀麻利工房 講師:山田良美氏)
 期間:平成30年10月6日(土)・11月24日(土) 対象2名
 内容:講師アトリエで研修。文化式上身頃原型から袖原型の製作、応用を実習。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「留学生に対する生活指導等講習会」(連携企業等:留学生の違法活動防止のための連絡協議会)
 期間:平成30年6月29日(金) 対象:1名
 内容:学外会場での講習会。留学生を受け入れ指導する上での注意点などを学ぶ。

研修名「就職をテーマとした講演会」(連携企業等:リクルート進学総研 講師:三浦勝寛氏)
 期間:平成31年2月16日(土) 対象:3名
 内容:学内会場、学生の保護者も参加。「変動続ける就活・就業環境」をテーマに現時点の採用環境や活動ポイント等の講演。教員は学生の就職活動指導の参考とする。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ドレーピング研修会」(連携企業:コズミックブルーム 講師:高松好枝氏(外注パタンナー))
 期間:令和元年8月 対象2名
 内容:学内教室で研修。シフォン素材のドレーピング

研修名「製図補正研修会」(連携企業等:(有)汀麻利工房 講師:山田良美氏)
 期間:令和元年10月～12月 対象:2名
 内容:講師アトリエで研修。文化式上身頃原型からラグランスリーブへの展開と補正

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ロイロノート・スクール活用方法研修」(連携企業等:(株)LoiLo)
 期間:令和元年3月8日、3月21日、5月20日 対象:2名
 内容:思考力、プレゼンテーション力を育成する「ロイロノートスクール」アプリケーションソフトの修得

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・自己評価の結果に対し、年2回学校評価ガイドラインに沿って外部評価を実施し、審議された内容から改善提案を行い、次年度へ反映させる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員からの意見を参考に、「ジグソー法」「KP法」「LITE」など「アクティブラーニング」の手法を授業に取り入れて学生が能動的に学習できるよう見直しを行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
椿 仁三千	千葉県立小金高等学校 総合学科部 部長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	高校等委員
柳川 純一	株式会社オンワード樫山 人財部 人財開発課 課長代理	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
白石 正和	株式会社コンペインガーデンリミテッド 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
窪田 智恵	フリーランス(服飾造形外部講師)	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
井上 伸行	株式会社井上伸行デザイン事務所 代表取締役	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
瀬倉 薫	株式会社ストライブインターナショナル 店舗開発本部 開発部 アソシエイト	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <http://www.hana-fashion.ac.jp/>

公表時期: 令和元年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

下記(2)ガイドラインに基づく項目の情報をホームページ上に公開している。

また主に入学希望者向けパンフレットにも学校の概要、教育内容、就職状況等、入学から卒業までの課程・取組みを掲載している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要 教育目標及び授業計画等
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.hana-fashion.ac.jp/>

授業科目等の概要

(服飾専門課程ファッションテクニカル科) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ライフスタイルファッション研究	・グループワークを主体とした学習 ・アクティブラーニングの手法を取り入れた発表等	1前	45	1			○	○	△	○		
○			イベント企画Ⅰ	・ファッションショーの企画、運営 等	1後	45	1			○	○	△	○		
○			イベント企画Ⅱ	・ファッションショーの企画、運営 等	2前	75	2			○	○	△	○		
○			ブランド企画	・グループでブランドを企画し商品をプレゼンする 等	2後	45	1			○	○	△	○		
○			総合実習Ⅰ	・オリエンテーション、運動会、授業見学会、朝顔市 等	1前	60	2			○	○	○	○		
○			総合実習Ⅱ	・学園祭、校外研修、作品展 等	1後	60	2			○	○	○	○		
○			総合実習Ⅲ	・オリエンテーション、運動会、授業見学会、朝顔市 等	2前	60	2			○	○	○	○		
○			総合実習Ⅳ	・学園祭、校外研修、作品展 等	2後	60	2			○	○	○	○		
○			LIFOプログラム	・「LIFOプログラム」を用いて、自分の強みを認識する ・強みの「確認」「拡張」「緩和」「応用」	1後	15	1	○		△	○		○		
○			オリジナルプランニング	・各自で製作目標を設定し授業内で製作する ・完成した作品は作品展等で展示、発表する 等	2後	30	1			○	○	△	○		
		○	就職ガイダンスⅠ	・自己分析、企業研究、グループディスカッション ・面接練習 等	1後	15	1	○		△	○		○		
		○	就職ガイダンスⅡ	・履歴書、エントリーシート作成指導 ・面接指導 等	2前	15	1	○		△	○		○		
○			一般常識Ⅰ/パソコンⅠ	・社会・時事問題、数的処理方法 ・文章作成方法、グループワーク 等 ・パソコンの基本操作 ・文字入力、表計算ソフトの使い方 等	1前	15	1	○		△	○		○		
	○		一般常識Ⅱ	・社会・時事問題、数的処理方法 ・文章作成方法、グループワーク 等	1後	15	1	○			○		○		
	○		一般常識Ⅲ	・社会・時事問題、数的処理方法 ・文章作成方法、グループワーク 等	2前	15	1	○			○		○		
	○		一般常識Ⅳ	・社会・時事問題、数的処理方法 ・文章作成方法、グループワーク 等	2後	15	1	○			○		○		
	○		パソコンⅡ	・パソコンの基本操作 ・文字入力、表計算ソフトの使い方 等	1後	15	1	○		△	○		○		

	○	パソコンⅢ	・パソコンの応用操作 ・画像を使った表の作成 等	2 前	15	1	○	△	○	○				
	○	パソコンⅣ	・パソコンの応用操作 ・縫製仕様書の作成 等	2 後	15	1	○	△	○	○				
	○	ビジネスマナー	・言葉遣い、ビジネス文書 ・来客対応、電話対応 等	2 前	15	1	○		○	○				
	○	カラーⅠ	・色の三属性とトーン、色と光 ・色彩と構成、色彩心理、配色について 等	1 前	30	2	○	△	○				○	
	○	カラーⅡ	・混色、目の構造、パーソナルカラー ・ファッション色彩能力検定対策 等	1 後	30	2	○	△	○				○	
	○	素材Ⅰ	・化学繊維、織地、編地、染色加工 ・仕上げ加工、糸、混用素材、天然繊維 等	1 前	30	2	○	△	○	△			○	
	○	素材Ⅱ	・再生繊維、半合成繊維、合成繊維 ・取扱い絵表示、クリーニング 等	1 後	15	1	○	△	○	△			○	
	○	ファッションビジネス基礎	・ファッションとは、シルエットディテール ・小売業の概要、計数について ・ファッションビジネス能力検定対策 等	1 前	15	1	○		○			○		
	○	服飾造形(理論)Ⅰ ※和裁(理論)Ⅰ選択有 り	・生地、針、糸の関係、採寸、体型観察 ・スカート、ブラウスの製図 等	1 前	90	6	○		○				○	
	○	服飾造形(理論)Ⅱ ※和裁(理論)Ⅱ選択有 り	・ワンピース、パンツ、ファッションショーの製図 ・洋裁技術検定対策 等	1 後	45	3	○		○				○	
	○	服飾造形(理論)Ⅲ ※和裁(理論)Ⅲ選択有 り	・パターンメイキング検定対策 ・ファッションショー衣裳製図 等	2 前	60	4	○		○				○	
	○	服飾造形(理論)Ⅳ ※和裁(理論)Ⅳ選択有 り	・カットソー、パーカー、子供服、卒業作品の製 図 ・洋裁技術検定対策 等	2 後	60	4	○		○				○	
	○	服飾造形(実習)Ⅰ ※和裁(実習)Ⅰ選択有 り	・スカート、ブラウスの製作	1 前	75	2			○	○			○	
	○	服飾造形(実習)Ⅱ ※和裁(実習)Ⅱ選択有 り	・ワンピース、パンツ、ファッションショー衣裳の 製作 ・洋裁技術検定対策 等	1 後	45	1			○	○			○	
	○	服飾造形(実習)Ⅲ ※和裁(実習)Ⅲ選択有 り	・パターンメイキング検定対策 ・ファッションショー衣裳製作 等	2 前	30	1			○	○			○	
	○	服飾造形(実習)Ⅳ ※和裁(実習)Ⅳ選択有 り	・カットソー、パーカー、子供服、卒業作品の製 作 ・洋裁技術検定対策 等	2 後	##	7			○	○			○	
	○	服飾造形(選択)	・ファッションショー衣裳製作 等	2 前	30	1			○	○			○	
	○	プロソーイング	・各種部分縫いテクニック(縫い代始末各種、ポ ケット各種、ファスナー付け各種、袖口の開き始 末各種) 等	1 後	75	3			○	○			○	○
	○	量産企画実習	・ジャケットパターン、スカートパターンの製作 ・ジャケット、スカートの製作 ・仕様書の製作 等	2 前	75	3	△		○	○			○	○
	○	ドレーピングⅠ/アパレルCADⅠ	・ドレーピング方法の習得 等 ・コンピューターパターンメイキングの基本操作 習得 等	1 後	30	1	△		○	○			○	
	○	ドレーピングⅡ	・シルエット表現方法 ・デザインバリエーション 等	2 前	45	1	△		○	○			○	

		○ アパレルCADⅡ	・ブラウス、スカートのパターン展開の操作方法を学ぶ 等	2前	30	1	△		○	○			○
○		着付Ⅰ	・きもの知識 ・浴衣の自装、他装 等	1前	30	1	△		○	○			○
	○	コンセプトメイクⅠ	・基礎化粧品の使用方法、スキンケア ・メイクアップ基礎 等	1後	30	1	△		○	○			○
○		ファッションデザイン画Ⅰ	・レディース、メンズ、プロポーション ・コンテスト作品 等	1前	30	1	△		○	○			○
	○	ファッションデザイン画Ⅱ	・素材表現 ・製品画 等	1後	30	1	△		○	○			○
		○ フリーゼミナールⅠ	・複数の教員が様々な授業内容を設定して学生が選択する ・学年、コースをミックスした授業を行う 等	1前	30	1	△		○	○	△	○	
		○ フリーゼミナールⅡ	・複数の教員が様々な授業内容を設定して学生が選択する ・学年、コースをミックスした授業を行う 等	1後	30	1	△		○	○	△	○	
		○ フリーゼミナールⅢ	・複数の教員が様々な授業内容を設定して学生が選択する ・学年、コースをミックスした授業を行う 等	2前	30	1	△		○	○	△	○	
		○ フリーゼミナールⅣ	・複数の教員が様々な授業内容を設定して学生が選択する ・学年、コースをミックスした授業を行う 等	2後	30	1	△		○	○	△	○	
合計				47科目		1800単位時間(74単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：専門課程の全過程修了要件は62単位以上とする。 履修方法：47科目中 必修43単位、選択必修4単位、自由選択27単位を履修		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	19週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。